

## 第1回 定例研修会

# 第1回 定例研修会

日時：令和2年11月22日(日)  
場所：ステーションコンファレンス東京



齋藤 琢也  
(群馬県)



熱田 互  
(東京都)



大島 光慶  
(千葉県)



新型コロナウイルス感染拡大は、私達の生活を一変させまた新たに第3波の到来が差し迫る中、令和2年11月22日(日)、ステーションコンファレンス東京にて3蜜を避け、最大限の感染対策を行い参集型とオンラインのハイブリッドセミナーとした第1回定例研修会が行われた。

当日、集合と同時に ZOOM で画面共有の試写、ホスト PC からの講演撮影と本格的な運営の準備を熱田先生、水口先生ほか定例研修会委員の先生方のご尽力のおかげで完璧な会となった。

今回の定例研修会には、20名程の先生方が集まり、オンライン視聴参加者が約60名と合計80名を超える盛大な研修会となった。

当会会長である田中 譲治先生の挨拶の後、最初は会員の先生の発表である。

始めに、大島 光慶先生が『AGC を使用した下顎前歯部のブリッジに対し FGG を行った一例』、笛木 貴先生が『咬合高径減少の症例に対する咬合機能回復について』と言う演題で、会員発表を行った。

その後、セレクトドドクターによるシンポジウムでテーマは『矯正』で甘利 佳之先生が『包括的治療を考慮した矯正治療の活用』、私、齋藤 琢也が『矯正治療とインプラントを併用し咬合再構成した3症例』、若井 広明先生が『当院におけるアライナー矯正と IOS の選択基準について』、古市 嘉秀先生が『インプラントと矯正を用いた QOL の向上～過去から未来、30年の臨床から～』という演題で会員の先生方にも大変興味のある演題であった。

午後からは、特別講演で吉野 宏幸先生による『歯周インプラント治療における矯正学的分析を応用した咬合再構成』という演題で Tooth position を顎顔面の形態的特徴に調和した理想の位置にコントロールしていく矯正治療と同じように、インプラントにおいても矯正的診断を基に3次元的に適切な Implant Position へ設置することが有効であると教えていただいた。

集まった先生方は、会長、定例研修会委員、演者と数名の会員の先生だけであったがこのハイブリッ

ド型研修会は、今後の研修様式のモデルになりうる会の方向性が確立した研修会でもあった。

残念ながら、懇親会は行われなかったが早くマスクの必要ない対面での研修会が行われ楽しい懇親会が出来る事を願い事後報告を終わらせていただく。

齋藤 琢也

### 新たな研修会の形、ハイブリッド型研修会開催へのチャレンジ

今年は、コロナ禍の影響で、4月定例研修会が延期、再延期となり、Go to キャンペーン真最中、第3波が到来した11月22日に開催いたしました。

一時、中止も懸念されましたが、このような時期だからこそ当会会員のためにできることはないかと田中会長と水口定例研修会委員長が常日頃模索されていることを受け、定例委員会としては感染対策を十分に取った上での小規模参集+ライブ配信のハイブリッド開催、さらにオンデマンド配信に挑戦することとなりました。(オンデマンド配信は配信期間を終了いたしました)

結果、珠玉の講演が出揃い、参加者80名を数え、会員の皆様へ素晴らしい研修会をお届けできたかと自負しております。ただ、業者を挟まない当会オリジナルの取り組みであったため、ご迷惑をおかけした点も少なからずありましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

閑話休題、定例研修会は他の研修会とどう違うのか？と思われる方もいらっしゃると思いますが、定例研修会は全員発表会以外で会員発表ができる唯一の研修会となります。つまり、会員発表がとても大切な構成要素となります。

この時期に果たして発表してくださる会員がいるのか？と思いましたが、笛木先生と大島先生がその不安を払拭する素晴らしいご発表をしていただけました。

そして、今回のセレクトドクターによるシンポジウムのテーマは「矯正」、4名のシンポジストにご登壇いただきました。甘利先生は歯列不正を有する患者の術前診査の重要性、齋藤先生は矯正前の齲蝕ペリオリスク管理と矯正医と連携した3症例、若井



先生は最新のアライナー矯正についてご講演いただきました。

そして、古市先生は、インプラント、矯正を主軸とした自身30年に渡る素晴らしい取り組み、そしてフィロソフィーをご講演いただきました。田中会長からも感動をしたとお言葉を頂戴し、素晴らしいセレクトドクターシンポジウムとなりました。

個人的に感じたことですが、この4名のシンポジストは押しも押されもせぬ成功されている方々ですが、守りに入らず新しいことを取り入れて攻めの臨床をされていることが共通していると感じました。自分も40歳代後半に入ってきて、臨床で守りに入ることを考えてしまう日々ですが、攻めの姿勢を忘れてはならないと感じながら拝聴しました。古市先生は「セレクトドはもう最後の講演だな」とおっしゃっていましたが、ぜひ40周年でもご講演いただき、これからも後進のためにご指導いただきますようお願い申し上げますと強く感じました。

そして、特別講演は吉野 宏幸先生にご登壇いただきました。現在、日本臨床歯周病学会常任理事・関東支部長であり、東京医科歯科大学歯周病学講座、JIADSと歯周病がご専門ですが、歯周外科処置に加え、インプラント治療に関わる骨造成において日本でも屈指の実力を持っている先生です。骨量が大幅に不足している顎堤へベニアグラフトやチタンメッシュを駆使した垂直・水平的GBRを行いインプラント治療による咬合を付与した上で、矯正的分析により求めた顎位へ咬合再構成を行った素晴らしい症例を多くのエビデンスを交えてご講演いただきました。

## 第1回 定例研修会

最後になりますが、このような状況の中で、度重なる開催日変更の中、素晴らしい発表の準備をいただいた演者各位に厚く御礼申し上げます。

また、当日の運営でアシストいただいた長嶋 秀和先生に感謝申し上げます。

今後も折りを見てハイブリッド型研修会を開催したいと思いますので、ご参加の程、よろしくお願ひ申し上げます。 熱田 互

2020年11月22日(日)ステーションコンファレンス東京会場にて令和2年度第1回定例研修会が開催されました。新型コロナウイルスの影響により参集受講とオンラインデマンド配信という変則的な形式での開催となりました。私は会場に赴き、会員発表にて症例を報告させて頂きました。会場におられた先生方は著名な先生方がばかりで、臨床経験が乏しい私には今回のような大きい会場で発表する経験が少ないため、発表は大変緊張しました。

シンポジウムのテーマは『矯正』でインプラント治療のオプションと合わせて演者の先生方のダイナミックに歯を移動させている症例を拝見し驚愕致しました。矯正というオプションがあれば臨床の幅はとても広がることを感じさせられました。特別講演の吉野宏幸先生の『歯周インプラント治療における矯正学的分析を応用した咬合再構成』ではセファロ分析からFacialタイプにより治療ゴールを設定する、高次元の症例を拝見し、大変勉強になりました。また最新のトレンドの歯周治療のトピックやGBRのアドバンスなテクニックの症例を拝見でき、良かったです。質疑応答も活発にされていて、人数制限していた会場でもとても熱気がありました。会場の熱気はオンライン上の閲覧者の方には伝わりにくいのがオンラインの難しいところだなと感じました。

最後にコロナ情勢で社会が不安定な状況の中、本会の開催の決断をして下さった田中会長、座長と配信をとりまとめて下さった熱田互先生、ならびに今回の研修会を企画してくださった日本インプラント臨床研究会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

大島 光慶

### 会員発表

大島 光慶先生

『AGCを使用した下顎前歯部のブリッジに対しFGGを行った一例』

笛木 貴先生

『咬合高径減少の症例に対する咬合機能回復について』

### セレクトドドクターによるシンポジウム

テーマ『矯正』

甘利 佳之先生

『包括的治療を考慮した矯正治療の活用』

齋藤 琢也先生

『矯正治療とインプラントを併用し咬合再構成した3症例』

若井 広明先生

『当院におけるアライナー矯正とIOSの選択基準について』

古市 嘉秀先生

『インプラントと矯正を用いたQOLの向上～過去から未来、30年の臨床から～』

### 特別講演

吉野 宏幸先生

(川口市開業 JIADS、OJ、日本臨床歯周病学会関東支部長・指導医、日本歯周病学会専門医・指導医)

演題『歯周インプラント治療における矯正学的分析を応用した咬合再構成』

